

株式会社ワーク・ライフバランス シニアコンサルタント

- ・官民、大手組織を含む、多数の企業と組織の働き方改革を支援
- ・父親学級、夫婦のキャリアプランセミナーの講師も務める

- 2005年 富士通株式会社に入社。マイナンバー、後期高齢者医療制度などの大規模制度にも関わる。24時間365日安定稼働のサービスに携わる。
- 2014年 **長男誕生～1日5時間の睡眠時間で、仕事と子育ての両立に奔走**
時間を掛けて成果を出すスタイルからの脱却を試みるが挫折
仕事と子育ての両立が難しい根源は長時間労働と確信
- 2016年 株式会社ワーク・ライフバランスに入社
残業ゼロで、限られた時間で成果をだす働き方にチェンジ
- 2019年 **次男誕生～10月から半年の育児休業を取得**
- 2020年 4月に復帰。コロナの影響で、そのまま在宅勤務中心に
7月にコロナ渦の男性の育児と仕事の両立をテーマにnews zero出演
妻と協力しながら、育児と仕事を両立

家事・育児(10歳と5歳の2男児)は妻と完全シェア



今日この場でお伝えしたいこと

- ① 子育て当事者の**時間と労力**を還元
- ② 子育て当事者間の**情報と機会の差**
を解消

上記2つの観点から、こどもDXの推進が重要！

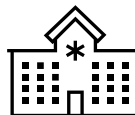
① 子育て当事者の時間と労力を還元 ～ 何に時間と労力を要しているのか ～

移動する、待つ、調べる、書く、保管することに多重な時間と体力を要する現状



行政

- 手続きや書類提出、面談などのため、役所に**移動する**
- 子供を抱えながら現地で長時間**待つ**、書類を**書く**
- 子育てに必要な**情報を調べる**



病院

- 病気の症状や受診などに関する**情報を調べる**
- 病気の子供や荷物を抱えて**移動**、現地で長時間**待つ**
- 申込書・問診表などの**書類を書く**



保育園

- 保育園関連の**情報を調べる**、申請等の**書類を集める・作る**
- 複雑な入所基準や持ち点を**調べて**申請のシミュレーション
- 園見学などのため、保育園に**移動する**



自宅

- 手当・給付、予防接種などの**書類を作る・保管する**
- 保育園・学校など子育てに関する様々な**書類の保管**や**情報整理**

⇒ 直接的に子どもに接する時間にできるだけ**時間と労力を還元したい**

② 子育て当事者間の情報と機会の差を解消 ～ 我が家では、こんなことが起こっていた ～



情報の多さ・アクセス性・紙ベース等により情報や機会の差ができる現状

妊娠

- 妊娠がわかり、夫婦そろって出産・育児の勉強をスタート、夫婦で役割分担するも、妻を中心に出産、育児に関する膨大な情報の収集を始めることに。
- 自分は仕事の繁忙期で、子育てに関するイベントへの参加、本を読む、直接調べる、手続する行動がとれず、「オンボーディング」への参画機会に出遅れる。

出産

- 行政手続や健診など、物理的に現地に移動したり、資料作成が発生するため、妻がタスク推進を担うことに。
- 自分も調べようと試みるが、情報が膨大で分散していて、アクセスできるまでに時間と根気が必要に。

育児

- 「夫は仕事で忙しいから仕方ないよね」という反応から、時間の経過とともに夫への諦め感が高まる。夫婦の関係性に小さな溝！？
- 健康診断や予防接種の予約、保育園・学校の連絡手段は紙ベース。妻に情報が偏りがちになる。夫が対応するための休みの調整が後手に回る・・・
- 遅くとも数か月前に通知される・知らない・・・仕事が調整できない

⇒情報やサービスに効率的にアクセスできるよう、

育児と仕事を両立させたい当事者間の情報や機会の差を解消

① 子育て当事者の時間と労力を還元、②子育て当事者間の情報と機会の差を解消 ～こどもDXの推進による解決のアイデア～



1) 出生届～子育ての手続きや情報のワンストップ化

- 出生届から子育て中に必要な給付や助成の手続きや定期健診、予防接種のオンライン化や申請の自動化など「**子育て当事者の時間と労力を最小限にする**」ワンストップ・ワンアクセスな仕組みが必要
- 電子母子手帳の活用により、「**夫婦が同じ情報にアクセスしやすい**」、「**都度の書類作成や記入が最小限**」「**健診、予防接種などの必須イベントの通知**」など、こどもの情報が自動的に連携・一元化・通知する仕組みが重要

2) 窓口・サービスのオンライン化やアクセシビリティの改善

- 「**役所に行く・子供を抱えながら待つなどの時間・負担を減らす**」ため、窓口や対面相談のオンライン化、定期健診や予防接種等のWEB予約などのアクセシビリティの充実が必要
- 両親学級等「**休日勤務の人も参加できる**」、「**誰でも・いつでも見られる／学べる**」ような子育ての「オンボーディング」の形が有用

3) 保育関連の申請や手続き、コミュニケーションの効率化

- 対面にこだわらず、オンラインでの保育園説明会や見学(動画で様子が分かる仕組み)、保育園との連絡も既存グループコミュニケーションツール活用で効率化とスピーディーな導入が有用
- 入所基準や自分の持ち点などによって、どの保育園に入れるかなど、「**役所に行かずとも保育の申請の試算・シミュレーションできる**」オンラインの仕組みが重要
- 就労証明書は毎年フォーマットを変えず／提出も紙にこだわらず、「**書類作成・申請の効率が高まる**」ような電子申請や管理の検討が必要

まとめ

“当事者が一緒に関わっている”という「**感情的な要素**」も重要
こどもDXによる「子育て当事者間の関係性」への好影響も期待

デジタルの大きな仕組みづくりと並行して、既存サービスを活かすことで、

- ① 子育て当事者の**時間と労力**を還元
- ② 子育て当事者間の**情報と機会の差**を解消

を早期に形にすることで、

皆で一緒に子育てしやすい社会を実現したい